

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 黒崎中 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

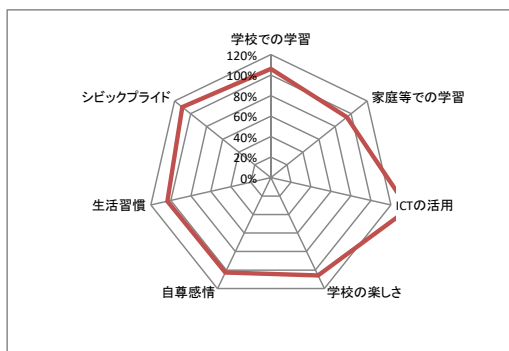
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の内容「書くこと」「話すこと」に関する問題は、全国平均および福岡県の平均を上回っています。「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」にやや課題が見られます。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	とりわけ物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明した問題に関する正答率が高くなっています。	
	努力が必要な問題	意見と根拠など情報と情報との関係について理解することに課題が見られます。	
数学	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の内容「数と式」「関数」に関する問題は、全国平均および福岡県の平均を上回っています。「図形」に関する問題に対して課題が見られます。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	とりわけ正の数と負の数の加法の計算の問題、事象に対して解釈することができるかどうかを見る問題への正答率が高くなっています。	
	努力が必要な問題	筋道を立てて考え証明すること、回転移動について理解することにやや課題が見られます。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
○「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達関係に満足していますか」との問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答しています。 ○「ICTの活用」で、授業でPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用したと答えた生徒が91.7%で全国平均を大きく上回っています。 ●授業で学んだことを次の授業や実生活に結びつけて考えたり生かしたりすることに苦手意識があるようです。学んだことをしっかりと振り返る時間を持ち、確認していくことが今後の課題です。 ●1日当たりの勉強時間、週末の勉強時間の問いに対して、1時間以上と答えた生徒の割合が全国平均を下回っています。家庭学習の更なる定着が必要です。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

授業の「まとめ」や「振り返り」を文章で書くことで、自分の学びを実感し、次回の授業に生かすようにする取組を継続しています。また、ワークやプリントなどを併用し、学習した内容の定着を図るように働きかけを行っています。

② 家庭生活習慣等に関する取組

定期考査前には、学習計画表を活用し、見通しをもって学習に取り組むことができるように呼びかけを行っています。また、家庭学習で、学習した内容を復習できるように課題を継続して配布しています。